

圏外のアンテナ

[チャレスポ!]の巻

先月、東京国際フォーラムで「チャレスポ! TOKYO」が開催された。

これは、参加体験型スポーツイベントで、「東京オリンピック・パラリンピック」に向けての準備行事。一昨年の9月、今年の1月に続いて、3度目の催しになる。

カレンダーは祝日。東京駅から徒歩圏というロケーションの良さもあって、ファミリーやカップル、ハンディキャップのある人ない人で、大盛況だった。

アスリートのトークショーもあり、東京都知事、コメディアン、人気のキャラクターらが、障がい者スポーツにチャレンジ。もちろん一般人も参加オーケー。

今回は小池都知事もステージ上で「ウイルチェアラグビー」にトライ。本職の選手が相手の車いすにドーンとぶつかるタックルを披露すると、その力強さにおお!と会場が湧いた。

わが福島の「キビタン」も前回に引き続いて、ステージに登場。キビキビと動き回って、とびきりの愛嬌を振りまいていた。

震災以降、東京都はこの手のイベントでは必ず東北三県(岩手、宮城、福島)の物販ブースを用意してくれる。中でも今回の福島県ブースは、ひいき目ではなく、明るい若さではち切れそう。はい、この笑顔です!

わたしも、いくつかの障がい者スポーツを初体験。とりわけ車いすバスケットボールは、味わったことのないスピード感。夢中でボールを追い掛けていた。

パラリンピック種目は、普段は健常者にとって未知の領域である。ところが、実際にやってみると想像以上の臨場感がある。

きっと、自分が一度でも体験した競技は、観戦の仕方も大きく変わってくるのだろう。

人の想像力には限りがある。だからこそ、このような体験は、想像力へのブースター(加速装置)になるのだなと、思ったのだった。

=2017年10月27日掲載=



若々しい笑顔が弾ける「チャレスポ! TOKYO」の福島県ブース